

■開催日時: 令和3年11月15日(月)午後1時30から

■開催場所: 大阪府咲洲庁舎41階会議室(大)

■出席委員(オンライン): 梶原委員、蔵治委員、千代松委員、鍋島委員、藤田委員、増田委員

以上6名(五十音順)

■審議議事要旨

□令和3年度森林等環境整備事業(危険溪流の流木対策事業)の実施状況及び令和4年度実施予定について

○資料2の4ページの令和3・4年度事業計画数量について、計画と実績が混在しているように見える。年度当初に立てた全ての計画の数字と、状況に応じて変わった数字を何か分けたほうがいいと思う。計画当初の箇所数と変更後の箇所数を随時反映させて、2段書きみたいな形で整理したらより分かりやすいと思う。

○ハード事業が防災対策でソフト事業が減災対策で統一したという説明だったが、防災対策にもハードとソフトがあり、減災対策にもハードとソフトがあると思う。防災・減災対策としてハードとソフト対策みたいな形に分けるか、ハード対策、ソフト対策と言わずに対策を4つ並べるか。内部で検討いただき、資料ごとに異なることにならないよう統一されたい。

⇒今回の資料において整理反映済

□令和2年度の都市緑化を活用した猛暑対策の実績に関わる評価及び令和3年度の実施状況について

○第三者評価については、令和2年度事業は妥当である。

○次回以降、効果計測でアンケートを取られる場合は、利用人数に対してある程度代表性が担保されるぐらいのサンプルを取っていただきたい。

○気温WBGTの計測については、調査した日が予報に反して曇ってしまった場合、効果が小さくなるので、晴れた日にもう一度やり直した方がよりよい結果にはなること、また、ミストが直接センサーに当たらないように計測することなど、気を付けないといけない点を事業者に対し事前に説明しておいたほうが良い。

○緑陰を形成する高木緑化はスペースの関係で非常に少なく、プランターでの低木緑化に留まっている。緑視率の向上も効果指標の一つとしているためやむを得ないところはあるが、可能な限り高木緑化を誘導いただくよう検討してほしい。

○大阪府市長会等で、事業実施の具体例をPRしてもらったら、他の市も具体的に検討に入られると思うのでよろしくお願ひしたい。

○本事業に手を挙げるのは鉄道事業者、バス事業者などの交通事業者になるが、コロナの影響で、かなりの事業を見直されていると伺っているが、実際はどうか。

⇒鉄道事業者やバス業者からは、コロナで先が見通せない中で、担当者として是非やりたいという気

持ちはあるものの、会社として感染状況を見据えざるを得ない状況にあると聞いている。

また、駅から駅や駅から公共施設への連絡路においても暑熱環境の改善対策が必要ではないか、万博も見据え駅前広場等だけでなく来阪される方が集まるような場所も対象にすべきでは、といったご意見も頂戴しているところ。

○事業期間である令和5年度まで、令和4年と5年の2年しか残されていない。このままでは当初に計画した箇所数について、達成できないのではないかと危惧している。事業要件の緩和や事業実施期間の延長など、何か具体的な対策を考えたほうがいいのか。

府民から超過課税として使途を明確にして徴収している財源であることから、有効に活用していくという方向で、来年度以降、少し要件の緩和等を含めた事業の方向性を検討してほしい。

⇒・いただいたご意見を踏まえ、要件緩和について財政当局とも協議を行い検討した結果、令和4年度においては、従来通りの要綱に基づき実施することとした。しかしながら、例えば事業対象地である駅前広場については要綱に抵触しない範囲で、エリアを広く捉えるなど、より多くの事業を採択できるよう募集を行っている。

併せて今年度は、既に複数回働きかけを行っている市町村に対しては、市長会等の場で活用事例を紹介するトップセールスを行うとともに、民間事業者への働きかけを強化することで、事業実施者の確保に努めていく。

・また今後の方向性については、引き続き検討しており、夏頃を目途に一定の方向性についてお示ししたいと考えている。